

大槌刺し子プロジェクト (岩手県大槌町)



一針ずつ丁寧に作業する女性ら (11月22日、岩手県大槌町で)

2011年の東日本大震災で被災した大槌町の女性たちによる伝統手芸「刺し子の制作を通じ、作り手の居場所づくりや文化の継承を目指す。全国各地の事業者と共同で商品開発を行い、一針ずつ丁寧に作った製品が人気を博している。

伝統手芸 刺し子継承

女性の生きがいづくりにつなげる活動が始まり、今年8月からは海外で災害支援活動を展開する「認定NPO法人テラ・ルネッサンス」(京都市)が運営する。かものめをあしった布巾やコースターなどをすべて手作りで制作。同時に、からい気持ちや粉砕、震災で飲断になった人と会うきっかけになった。

NPO法人いこいの家夢みん (横浜市戸塚区)



ピアノの伴奏で合唱する「歌声喫茶」の参加者たち (11月20日、横浜市戸塚区で)

横浜市戸塚区の約2,000戸が集まる大型団地「リムハイム」で、高齢者の交流や生活支援などに取組む。今年4月には、幅広い世代の住民が楽しめる拠点「みんなの居場所 夢みんカフェ」も新設した。

高齢化団地に「居場所」

を受けたいが第一歩となった。その後は介護予防などに活動を開始し、2014年に団地内の空き店舗に拠点を移した。現在は歌声喫茶、パソコン教室、健康体操など多彩なプログラムを年間7,000日以上開催している。買い物やみだしなどを住居が提供する「ボランティアバンク」も運営する。

社会福祉法人 まるこ福祉会 (長野県上田市)



施設内のホールでボッチャを楽しむお年寄りたち (11月17日、長野県上田市で)

相談相手、余暇も充実

東日本大震災での支援活動を支援し、高齢者も交流して地域住民が高い支え合い、運営する福祉施設のスタッフが中心となって活動を行っている。障害者も高齢者も「あったら誰でも会話が楽しめる」環境作りを努めている。



読売福祉文化賞 第21回 受賞6団体

【高齢者福祉部門】

今の時代に合わせた新しい福祉活動を実践している団体や個人を顕彰する「読売福祉文化賞」の受賞団体が決まった。今年で21回目を迎える。一般部門で不登校の若者の自立支援のためのフリスクリスを運営し、就労支援の場を提供するNPO法人With(山形県米沢市)など3団体、高齢者福祉部門で高齢化率の高い大槌橋集住住宅で、長年にわたる高齢者のための交流サロンを運営し、介護予防プログラムやランチを提供している「NPO法人いこいの家夢みん」(横浜市)など3団体が選ばれた。

【一般部門】



団体が運営する居酒屋で就労経験を持つ若者(左端) (11月22日、山形県米沢市で)

CINEMA Chupki TABATA (東京都北区)

目や耳の不自由な人、大音量や暗闇が苦手な感覚過敏の人、そして赤ちゃんと一緒に楽しむ「ユニバーサルシアター」を運営している。代表の平塚千穂子さんは、「映画を楽しく見たい」という視覚障害者の声を聞き、2001年から音楽ガイド付きの映画鑑賞会を始めた。すると、一緒に鑑賞した映画の感想を家族と共有できた感動で泣く姿や、映画という楽しみをきっかけに、引き寄せられた人の姿を自らの当たりとした。

映画の感動を誰にでも

今後は、障害者や地元の人たちが交流を深める機会を増やすため、簡易的な上映設備を備えたカフェスペースを近所に設けることも検討中だという。平塚さんは「日常生活で知り合うことで、障害者の暮らしを人ごとではなく自分のこととして捉えられるようになるはず。そのきっかけ作りにも取り組むたい」と話している。

NPO法人 ChanChan 夢企画 (北九州市小倉南区)

知的障害のある人々が演じる「ChanChan劇団」を運営する。発足30年を迎えた劇団は「個性をみかけば誰もが主役をモットー」に北九州市内外のほか、韓国、台湾など海外でも公演表現活動を通して障害者の社会参加を促している。

知的障害者「主役」の劇団

34人。毎年12月の定期公演では2日間を計1,000人以上の観客を集める。11月5日は隔週1回、定期公演半年前の6月からは週1、2回の稽古を重ねる。劇団は全国区の劇団にすることを目標に掲げ、一障害者を理由に社会参加を躊躇うようになっている人たちの背中を押せる存在にしたいと話している。

時代に即した いこいと交流

- 【選考委員】(敬称略) 安藤謙太 東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー 栗原小巻 女性 シニア社会学会会長 相井孝子 シニア社会学会会長 高木憲司 和洋女子大学准教授 馬場 満 日本福祉文化学会副会長 保高秀昭 読売新聞東京本社編集委員

主催 読売新聞社 読売光と愛の事業団 後援 厚生労働省 日本福祉文化学会